北海道バプテスト連合ニュース
全道にキリストの光を！

２０１４年11月発行　No.103
発行者　西島啓喜　　編集者　西島啓喜
発行所　〒080-0809　帯広市東9条南8丁目1-3
帯広バプテスト・キリスト教会内
http://hokkaidobap.jimdo.com　pw:jbc1947

巻頭言

「われらバルヨナ」

北海道バプテスト連合　書記　田代　仁（苫小牧教会）

「バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。」　（マタイ 16：17）

イエスさまは、ペテロに向かって言われました。「バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。」（マタイ 16：17）

ペテロは単純な所もありますが、情熱家で、イエスさまを愛することにかけては人後に落ちません。そのペテロは、元来の名前はシメオン（ヘブライ語）で、その短縮形がシモンとなります。そのシモンがペテロと呼ばれるようになったのは、イエスさまがケパ（アラム語、意味は岩の断片・石、ヨハネ 1：42）とあだ名をつけたことに由来します。それがギリシャ語読みとなったのがペテロという名前です。では「バルヨナ・シモン」の「バルヨナ」とはどういう意味の名前かと言えば、それは「ヨナの子（子孫）」という意味になります。

ヨナ。それは旧約聖書に登場する預言者ヨナの事です。ヨナは敵国であるアッシリアに行って「四十日を経たらニネベは滅びる」という預言をせよ、と神さまに使命を託されますが、それを嫌がって「タルシシ」（当時の世界の果てと考えられていた所）まで逃げようとした人物です。しかしその事よりも預言者ヨナの物語を特徴づけるのは、そのヨナが大きな魚に三日三晩飲み込まれて後に陸地に吐き出され、預言者としての使命に赴いたことでしょう。

実はその事を例に出してイエスさまは「邪悪で不義な時代は、しるしを求める。しかし、ヨナのしるしのほかには、なんのしるしも与えられないであろう」と語った事があります。先の「バルヨナ・シモン」とペテロが呼ばれる、その少し前に起きた出来事です。しかしその「しるし」とは預言者ヨナ自身のことではなく、イエスさまご自身の事でした。イエスさまの十字架の死と、そこから三日目によみがえられることを指して「ヨナのしるし」と語られたのです。

ペテロはその「ヨナの子」と呼ばれた。それは、ペテロがイエスさまを「あなたこそ、生ける神の子キリストです」（マタイ 16:16）と信仰告白したからにほかなりません。そしてイエスさまはその信仰の上に「わたしの教会を建てよう」（マタイ 16:18）と語ります。そしてまた、私たちもイエスさまを「あなたこそ、生ける神の子キリスト」と告白する者たちです。その信仰告白は私たちではなく「天の父」によって現わされ、その信仰の上に私たちの教会もまた建てられています。

しかし、北海道連合と言う私たちの教会の群れはおよそ四半世紀の間、新しい教会を建て上げられずにいます。それは各教会の体力を回復させるための休息として置かれた期間だと聞きます。では、その間に体力は回復したのかと言えば、そうとは言えない現状があります。ですが、私たちは悲観する必要はないのです。そもそも北海道連合が伝道の働きに乗り出した時も「自給自立がやっとか、未だそれにも満たないという貧弱な群九つの集まり」（連合ニュース 1969.2 加藤亨・札幌）であったと言います。私たち教会と言う群れは、余力によって生み出されたのではなく、ペテロのような情熱によって生み出されたのです。その信仰の上にイエスさまが「わたしの教会を建てよう」と語っておられるのです。私たち北海道連合という教会の群れは、その主の呼びかけに応える時に来ているのではないか。その問いと願いを共に祈りに併せてまいりましょう。

●小樽バプテスト教会・創立６０周年記念の歩み。

小樽バプテスト教会が、伝道を開始されて今年で丁度６０年になりました。当時、日本バプテスト連盟に属する教会で、北海道には、札幌バプテスト教会だけであった。札幌バプテスト教会では､二つ目の教会を小樽にと祈られ、伝道が開始されたものと思われます。

１９５４年６月、当時の労動会館の一室を借りての最初の礼拝がもたれた。と言われております。５８年には、現在の土地が与えられ、会堂、牧師館が建てられ、初代牧師として当時、札幌バプテスト教会の副牧師であった深沢守先生が初代牧師として就任されました。以来、歴代牧師を上げると、二代目、岩波久一牧師、三代目、滝沢光隆牧師、四代目，板垣哲太郎牧師、五代目、松田裕治牧師、六代目、岩波久一牧師、で現在に至っております。この歴代牧師の中で、一番長く牧会して下さったのは、滝沢光隆先生で１９６７年から２４年間、牧会して下さいました。現在の教会堂は、滝沢光隆牧師の時代に、増改築された会堂です。一昨年、その会堂をリホームして、外観はとてもきれいになりました。更に昨年の１１月には、牧師館が皆さんの祈りによって新築され、現在の岩波久一牧師が入っております。

この６０年の歩みを感謝して、１０月１３日（月・祝）特別集会をすることが出来ました。講師には、森下辰衛先生（三浦綾子読書会代表）。と共に、ピアニスト・阪井和夫、歌・浜田盟子、お二人をお招きして、講演とコンサートの会をすることが出来ました。礼拝堂が一杯の出席者を得て、恵まれた集いをすることが出来ました。

阪井和夫氏、浜田盟子氏

小樽市は、人口減少の多い市で、高齢化も進んでいるところですが、神様が与えようと望んでいることをしっかりと見つめながら、良き教会形成が出来ることを望みつつ、教会員一同、励んでいるところです。　（岩波久一）

●音楽委員会活動報告　音楽委員　齊藤聖彦（帯広教会）

今年の連合音楽委員会は、釧路教会への聖歌隊派遣という形で､多くの方々とともに奉仕の喜びを分かち合うことをめざし、8 月 23 ～ 24 日の集会に向け準備を進めました。各教会へ参加者を募り、最終的にスタッフを含め札幌、平岸、函館、函館美原、帯広の各教会から 20 名の奉仕者が与えられたことは感謝でありました。

土曜日の集会では、教会に気軽に足を運んでいただくことを目的に、二部構成のコンサートを行いました。前半は子供たちを対象に、女性コーラスの合唱や、森洋子さんと本多依子さんの連弾など、教会音楽の域を超えたジャンルでのファミリーコンサートという内容でした。また、コンサートの中で、翌日の礼拝メッセージを担当される札幌新生キリスト教会の田中信矢牧師が、紙芝居で集会を盛り上げてくださったことも、特筆すべきでしょう。そして後半は教会らしく、聖歌隊と真部恵子さんの讃美により、信仰を持つ喜びをメロディーに乗せ、讃美を主体としたプログラムをもちました。全体を通して、教会がより地域社会と調和していくためのひとつのスタイルとして、とても有意義なコンサートであったと思います。翌日も礼拝の中で、聖歌隊の特別讃美があり、音楽を通して豊かな礼拝を守ることができました。

この集会のために、連合の壮年会が事前にチラシ配布や環境整備のご奉仕をしてくださったことも忘れてはなりません。さまざまな場面で協力伝道が推進され、それぞれの思いや力が釧路の地でひとつに結集されたことは、とても意味があることでした。釧路教会および札幌教会と聖歌隊のサポート、参加者と皆様のお祈りに心から感謝をいたします。

●青年伝道隊、室蘭へ

青年会では、昨年度の釧路伝道隊に続き、今年は９月20,21日に室蘭へ伝道隊を組んで行きました。昨年の伝道隊は青年５人で釧路教会へ行きました。今年の伝道隊は、青年だけでなく高校生と壮年会からも参加者があり、青年５名、高校生２名、壮年４名の計１１名で実施することができ、世代を超えて喜びを持って活動できました。

今回、室蘭バプテスト・キリスト教会で、３つの活動をしてきました。それは、教会の近隣地域へのトラクト配布と教会の周りの草取りや剪定、そして、主日礼拝の奉仕です。トラクト配布と教会の草取りなどは２０日に行いました。トラクト配布は、３つの班に分かれて行いました。配ったトラクトの部数は予定していた数よりも少なかったのですが、壮年会の方に車での移動を手伝っていただいたりしたおかげで、室蘭教会の近隣のほとんどにトラクトを配ることができました。その後トラクト配布を終えた班から順に教会の周りの草取りや剪定を行いました。

次の日の２１日の礼拝では、伝道隊に参加したメンバーが奏楽や司会、献金、証、特別賛美などの奉仕をさせていただきました。２人の青年の証しを通して、それぞれの青年がどのようにして教会に関わっているか、伝道をどう考えているか少し共有することができました。礼拝後の愛餐会では室蘭教会の方々と交わりの時を持ちました。この日の礼拝は、様々な都合が重なって、欠席者も多かったようですが、そのような日に伝道隊のメンバーが遣わされたことが、少しでも教会の皆さんの励みになれば幸いです。

今回の働きで神様が注いでくださった恵みを覚えます。蒔かれた種が実を結ぶように、また主が室蘭教会に牧師を送ってくださり、この室蘭の地で宣教と牧会の働きを力強く進めてくださいますように、心からお祈り致します。今後とも青年会では自分たちにできる伝道を続けていきたいと考えていますので、青年の派遣とお祈りよろしくお願い申し上げます。

（福田知悠・山口尚哲）

●第５回信徒セミナー開催

北海道バプテスト研修センター代表　福田雅祥（函館美原）

去る１０月１２日（日）～１３日（月）、札幌バプテスト教会を会場に、「第５回信徒セミナー」が開催されました。１３教会から、のべ５２名の参加がありました。

今回は、使徒行伝を通して、キリスト教初期の伝道が、どのように展開して行ったのかをテーマにした研修会でした。１２日は、田森茂基先生（旭川）が、おもに「人」に焦点をあてて、また、１３日は、石橋大輔先生（札幌）が、おもに「教会」に焦点をあてて、学びを展開して下さいました。初代教会の歩みとそこに現された神様の御業が、それぞれの教会における伝道に引きつけられて、豊かにつながって行くようにと願っています。

研修センターは、今年度より第二期二年に入りました。運営委員も入れ替わり、事務スタッフも立てられました。「教会の現場に有意義で実践的な研修を提供する」という設立の理念に、新たな思いで取り組んでいます。今後とも皆様のお祈りとお支えを、心からお願い致します。また、ご意見やご助言をお寄せ下さい。エクステンション・プログラム（講師派遣）なども開設しています。お気軽にお問い合わせ下さり、研修センターをご活用下さい。

※研修センターのホームページ
http://www6.ncv.ne.jp/~mihara-c/HBTC/index.html

●宣教会議　初めの半歩？

連合会長　西島啓喜

１０月１３日、久しぶりの宣教会議を開催した。前回は２００６年、無牧師教会の増加で危機感を持って、牧会主事構想について討論された。しかし、この構想は牧師がほぼ充足して立ち消えになった。今回は、新たな開拓伝道の可能性について、「夢を語ってほしい」という趣旨で信徒セミナーの時間を一部頂いて開催した。

澤田帯広教会協力牧師の司会で、福田牧師から「教会が開拓を進めるとき」という視点から函館美原教会の開拓の初めからと、いくつかの痛みや喜びの経過が話された。

田代牧師からは連合の立場から、連合開拓の歩みについて、過去の連合ニュースなどから、その歩みが話された。

野口哲哉連盟宣教部長からは全国の教会形成の実情、あるいは閉鎖される教会、伝道所の実情について数字やグラフを用いて説明され、「北海道連合への問い」がなされた。

質疑討論では、なぜ閉鎖されたのか、防ぐ手立てはなかったのか、など全国の動きに関心が寄せられた。意見希望では、まだまだ旅行していてバプテスト教会のない地域があるので教会が建てられたらいい、などの希望が述べられた。反面、連盟や連合が行ってきた「開拓伝道」の課題を検証する必要がある。「開拓」という言葉には違和感があるなどの意見も出された。

期待していた「夢を語る」までに行かなかったきらいもあるが、各教会の足元の厳しさが反映されているのだろうと推察した。しかし、伝道は復活の主から教会に託された使命であることを覚えつつ、初めの半歩を歩み出したいものである。

●道南ブロック牧師・牧師連れ合いの会

道南ブロック牧師・牧師連れ合いの会。3 年前に自主的なかたちで発足した当時の中心メンバーが道南 4 教会の牧師・連れ合い（函館･函館美原･室蘭･苫小牧）計 8 名であったことから、通称「道南 8」と呼ばれ、親しく交わりつつも互いに研鑽し合い、励まし祈り合う貴重な機会として定着するようになりました。昨年敬愛する斉藤隆牧師とお連れ合い栄子姉ご夫妻の道外転任による送別会を実施以後、現在は「道南 6」と呼び名を変えて開催しています。開催は春・秋の年 2 回を旨とし、会場は状況に合わせ各教会の協力を頂きながら持ち回りで行っています。

とはいえ今年は諸事情により、10/20-21 の秋季開催のみとなりました。会場は函館美原キリスト教会からのご協力を頂き、3 教会から 3 家族計 11 名が参加。牧師たちは主にテーマを決めて行う「説教演習」、連れ合いの方々は、日頃感じている課題や悩み等を、自由に分かち合う時間を過ごします。また今回は合同での時間を持ち、事前に用意してあった案件。「いわゆる『牧師婦人』に関する連盟理事会見解」を通して牧師や牧師の妻の「献身」について話し合いました。これ以外には「室蘭教会への支援」や「小学生会員の総会議決権」等についても互いの考えや意見を交わし、共有し合う事が出来ました。学びの他に、皆で協力しての食事づくりや素敵なティーブレイク等のリフレッシュ時間もあります。こうして毎回派遣礼拝を経て、それぞれの教会へと新たな思いを持って遣さされて行きます。本当にあっという間の一泊二日。今後もこの会を是非継続し主にある交わりと協力の絆を深め、更に連合各ブロック諸教会との連帯活性化に繋げ生かして行けるようにと祈っております。連合諸教会の皆様のお祈りに感謝しつつ！（本多啓示）

●女性信徒の会研修会　「世界伝道と私たちのつながり」

北海道女性信徒の会　会長　福田史子

今年の女性信徒の会のビッグイベントである研修会が９月１５日（月）札幌教会で行われました。講師には女性連合の村上千代幹事と平岡ジョイフルチャペルの日高龍子牧師をお招きして、１４教会５６名の参加者と共に近づく世界祈祷週間の前に世界伝道の具体的なお話しをお聞きしました。村上幹事は４，５日前まで行っていたカンボジアのホットな報告を、また日高牧師からは「みずはどこから」ヨハネ４：１－２６からのメッセージを頂き、その後１７年間宣教師として働かれたタイ伝道についての報告がそれぞれありました。カンボジアもタイも日本では考えられないような貧困の中にあることを知りましたが、そんな中にあっても明るい笑顔で歌ったり、踊ったりしている子供たちの姿が忘れられません。苦しいときも悲しいときもイエス様が共にいて下さるという喜びを見出し、希望を持って生きている人々に逆に励まされます。このような人々

の側に寄り添ってイエス様の喜びや希望を伝えるために宣教師たちが全世界に遣わされています。先生がたのお話で改めて今のアジアの状況や宣教師の働きを知ることが出来ました。私達一人ひとりの力は小さいですが、改めて祈りと献げ物をもって世界伝道を支えていきたいと思います。そして研修会でそれぞれが頂いたものを女性会だけではなく教会の中や、来ることの出来なかった教会の方々と分かち合っていただきたいと願っています。

●道東ブロック壮年修養会「北海道の伝道・これまでとこれから」　帯広教会　井上　保

９月１４日～１５日の日程で当教会を会場に開催された。旭川東光教会と帯広教会から１２名の参加をいただいた。旭川教会は葬儀が入り急に参加できなくなった。講師には平岡ジョイフルチャペルの日高嘉彦協力牧師を招いた。発題と協議には帯広教会の澤田協力牧師、西島啓喜兄、旭川東光教会の渡辺教育担当牧師にお願いした。

渡辺教育担当牧師からの発題には東光教会の３０年の歩みがしめされた。旭川教会開拓開始３０年を前にした時期に開拓伝道の話が来た。開拓伝道を始めるにあたり総会での議決をとったという。しかし、最初から賛成多数の多数決による開始ではなく、慎重に検討、反対といった立場をとる少数意見にも配慮し、信徒研修会などを開いて教会の一致を図り教会の総意として開拓伝道開始を決議することとなった。ここで多数決による見切り発車は危険であると述べられた。この後、開拓伝道を始めるにあたり、熱い祈りと多額の献金がささげられた。そして、総会の中で／「信仰」によって歩みだすことが大切だ。／足りないところは神様に求めてみよう。／田舎の教会には新来者は来ない。／でもポツリ・ポツリと来る人はいるはずだ。／先入観で判断せず神の視点で見てみる。／神様を単純に信じ、素晴らしいものをいただいたから、一番良いものを差し出す。／責任は神様が取る。／神様に引きずられ、押し出され、これからは喜んで出ていきたい。／という意見があったことが紹介された。

日高協力牧師からは「タイ教会の開拓伝道に学ぶ」と題して講演をいただいた。タイのバプテスト教会も日本バプテスト連盟と同じく南部バプテスト宣教団との関係が解消され独自に歩みだしていることが紹介された。タイ伝道のきっかけは中国から追放された宣教師達が戻るため待機していたこの国で伝道を始めたことにあった。資金援助を受け宣教師を受け入れ教会形成を図っていたが、１９９７年アメリカからの援助を打ち切られてからタイバプテスト教会が活性化し成長し始めた。まさにアメリカスタンダードからタイスタンダードへの変貌でタイ教会自身による教会形成が始まったのである。まず礼拝が変化した、タイの伝統音楽がとりいれられ、楽器もピアノから民俗楽器に変わっていった。神学校も役割が変化し拡がり、待つ姿勢から出かけていく姿勢に変化している。牧師養成中心から教会のニーズへの応答という要素が加わり、出前出張授業も行われるようになった。休日には教会の求めにより、教会学校、カウンセリングなどの講座が開かるようになった。長期休暇には空いた神学校の施設や寮を使い信徒指導者訓練コース、隣国の牧師訓練コースや大学院の講座の開催などで忙しいという。特に１週間に渡り泊まり込みで開催される信徒指導者訓練コースでは定員６０名に対し９０名の応募があるほど重要性が認識されているようである。学び続ける信徒をバックアップする神学校という姿勢だ。さらにバプテスト諸教派との連携も図られるようになり教授陣も充実しているとのことだ。信徒が教会形成を担い、目標をはっきり絞って宣教を始めた。職業。境遇などに特化した教会が形成されていて、それぞれが成長している。

質疑、意見交換では、初代教会は迫害から逃れて教会が広がって行った（アンテオケ教会）。教会の分裂により新たな教会が形成されたり、行き違い、すれ違い、相互理解不足から分かれ新たな教会が作られた。開拓伝道を開始するにあたり核となる「人」が重要な要素となるようである。信徒としての訓練、個人伝道できる信徒の養成（核となる信徒）。視点を変える、誰と教会を作るのか、みことばを共有する、どう聖書を読むのか、これまでと同じことをしていてはいけない、札幌教会の開拓を自分のこととしてとらえられるか？　牧師一人ではなく信徒からリーダーを作ることが必要ではないか？　伝道は牧師の問題、というより信徒の問題（信徒中心の時代）になっているのではないかとの意見が出された。

最後に、神様の導きにより当教会での開催おいて壮年各位の協力をいただきましたことに感謝いたします。また都合により急遽参加できなかった旭川教会の皆様、遠いところを来てくださった東光教会の方々に感謝とともに主の祝福があるように祈りたいと思います。